

第375回  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
《プログラム》

日時：平成27年9月19日（土）午後15時00分  
会場：ホテルニューオータニ長岡2階『柏の間』  
長岡市台町2丁目8-35 0258-37-1111

次回 第376回新潟地方会予告  
日時：平成27年12月5日（土）午後3時  
会場：未定  
演題申込期限：平成27年11月6日（金）

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分、討論3分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1-757  
新潟大学医学部泌尿器科学教室内  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784

15:00~15:30

座長 諏訪 通博

### 1. 新潟大学医歯学総合病院における進行性腎癌に対する初期分子標的療法の adverse event 中止例について

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

乾幸平、山名一寿、丸山亮、笠原隆、原昇、谷川俊貴、富田善彦

転移性腎細胞癌(mRCC)に対して、分子標的薬の sequential 療法が拡がり、薬剤選択の順序や使い方を最適化することが求められている。

本演題では2008年から2011年までの初期例と2012年から現在までの2期に分けて、分子標的薬を投与したmRCC症例につき検討した。初期29例のうち1<sup>st</sup> line 継続は4例、PDによる中断15例、AEによる中断は10例であった。後期29例では、1<sup>st</sup> line 継続12例、PDによる中断13例、AEによる中断は4例であった。症例経験の蓄積から初期に比し、マネージメントは向上してきている。副作用管理について再考したい。

### 2. 指輪を外す方法に準じて工業用ナットによる陰茎絞扼症の解除に成功した1例

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

中山亮 長谷川素 乾幸平 瀧澤逸大 山名一寿 原昇 中川由紀 小原健司

齋藤和英 富田善彦

38歳男性。内径20mm厚さ10mmの工業用ナットを陰茎根部まで挿入し外れなくなり、6時間後当科を受診した。陰茎の高度浮腫を認めたが、壊死所見はなかった。歯科治療機器での切断を考慮しつつ、陰茎とナットとの間にスペーサーの挿入が困難であったことから、非破壊的にナットを外すことを試みた。圧迫による血流遮断と海綿体からの脱血では解除できなかった。隙間に挿入した4Frネラトンカテーテルを、ナットの遠位側の陰茎にらせん状に巻きつけ、ナットの近位側から巻き外しながらナットの牽引移動を繰り返し、解除に成功した。指輪による手指絞扼を紐を用いて解除する同様の方法など、文献的考察を加え自験例を考察する。

### 3. 前立腺結石による尿閉の一例

新潟県立中央病院泌尿器科

石川晶子 水澤隆樹 片桐明善

患者は72歳男性。急性尿閉を主訴に当院救急外来を受診した。導尿を試みられたがカテーテル挿入困難のため当科を紹介された。尿道カテーテルを留置できず尿道狭窄を疑ったが、軟性膀胱鏡では多数の前立腺結石が尿道内に露出・一部陥頓していた。膀胱瘻造設のうえ、後日尿道結石除去・碎石とともにTUR-Pを行った。術後、自排尿良好となり膀胱瘻は抜去した。前立腺結石による尿路症状につき報告する。

15:30～16:10

座長 米山 健志

#### 4. 無治療経過観察中に縮小した尿管癌の1例

長岡中央総合病院 泌尿器科

山口峻介、信下智広、高橋英祐、照沼正博

症例は86歳男性。2013年7月、肉眼的血尿にて当科初診。CTにて右下端部尿管に腫瘤あり。同年8月に尿管鏡検査（腫瘤生検）、RP施行し、尿管癌と診断。86歳と超高齢のため経過観察の方針とし、外来経過観察したところ、腫瘍の著明な縮小を認め、現在に至る。無治療経過観察中に縮小した尿管癌を経験したので報告する。

#### 5. 腹腔鏡下異所性褐色細胞腫摘除後に発症した乳糜瘻の1例

立川総合病院 泌尿器科

鳥羽智貴、諏訪通博、安楽力、上原徹

66歳男性、大動静脈間に発症した異所性褐色細胞腫に対し、腹腔鏡下腫瘍摘除術を施行した。術後第3病日に食事を開始したところドレーン性状が白濁、術後第5病日にドレーン排液の中性脂肪高値を確認し乳糜瘻と診断した。禁食を行ったが改善せず、術後8日目からオクトレオチドを投与したところ、速やかに乳糜は改善した。泌尿器科領域における術後乳糜瘻は稀であるが、オクトレオチドが著効した1例を経験したので報告する。

#### 6. 両側尿管石灰化をきたした好酸球増多症の1例

長岡赤十字病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、同 神経内科<sup>2)</sup>

池田正博<sup>1)</sup>、鈴木一也<sup>1)</sup>、米山健志<sup>1)</sup>、若杉尚宏<sup>2)</sup>、藤田信也<sup>2)</sup>

67歳男性、両下肢麻痺、末梢血好酸球増多を認め当院神経内科でアレルギー性肉芽腫症（AGA）と診断され、治療を受けていた。経過中に両側尿管の石灰化と両側水腎症が出現した。尿路確保のため尿管ステント留置を試みたが高度尿管狭窄のため挿入できず、左腎瘻を造設した。現在は腎機能良好で、ステロイド治療中である。AGAは神経、皮膚、消化器、循環器など様々な臓器障害きたす全身疾患であるが、尿路系の異常をきたすのはまれである。文献的考察を加えて報告する。

#### 7. ロボット支援下前立腺全摘術の初期成績

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野<sup>1)</sup>、かめだ泌尿器科クリニック<sup>2)</sup>、

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院<sup>3)</sup>

丸山亮<sup>1)</sup>、瀧澤逸大<sup>1)</sup>、山名一寿<sup>1)</sup>、笠原隆<sup>1)</sup>、新井啓<sup>2)</sup>、西山勉<sup>3)</sup>、富田善彦<sup>1)</sup>

当院では、2014年2月17日にda Vinciによるロボット支援下前立腺全摘術1例目を施行して以来、46例の手術を施行してきたので、今回初期成績を報告する。平均手術時間は292分、平均コンサルト時間は239分であった。合併症率は12.5%、断端陽性率は30.8%であった。尿禁制達成率(safety pad)は3か月以内で67%、6か月以内で90%であった。1年経過しての、新たな取り組みも含めて紹介する。

臨時地方会総会 16:15～16:40

議題；日本泌尿器科学会新潟地方会会則改定について（年会費等）

その他

[ 休憩 16:40～17:00 ]

# サテライトセミナー

日 時：平成27年9月19日（土）

17時00分～18時20分

会 場：ホテルニューオータニ長岡 2階『柏の間』

17：00～17：10 製品紹介 旭化成ファーマ株式会社

座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科・分子腫瘍額分野 教授 富田 善彦 先生

一般演題 17：10～17：20

当科におけるリコモジュリン の使用経験

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野 安楽 力 先生

DIC を伴う重症敗血症の死亡率は極めて高く、感染症の治療に並行して抗 DIC 治療を行うことが重要である。当科では過去1年間で6例のDIC症例に対してリコモジュリンを用いて治療を行った。リコモジュリンについて文献的考察を踏まえて報告する。

特別講演 17：20～18：20

## 「泌尿器科領域における臨床研究のあり方について」

講師 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
泌尿器病態学 教授 那須 保友 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会  
旭化成ファーマ株式会社

サテライトセミナー終了後、「2階 雪椿の間」で情報交換会を予定しております。